

# 「ばあばへ」

## 第2回 KYOTO KAKIMOTO 恋文大賞

手紙(文章)部門 <高校生の部>

中学校で部活が始まってから、高校三年の今まで、なかなか会えずにごめんね。ばあばに電話すると言って、いつも電話するのはばあばからで、受話器を上げたら

「なごお見らんよお。元氣しとるね？ばあばは寂しくて、死んでするところやった。」と、これがお決まりの文句。

「ごめんさあ。忙しかったっちゃん。」

と、これもうちのお決まりの文句。

でも、泊まりに行った時は、ばあばと一緒に寝るし、

ばあばのお手伝いもして調子のいい私だと自分でも思うよ。

でも、ばあばはそんなうちを一番好きと言ってくれる。

ありがとう。うちも、ばあばが大好きよ。

実はね、ばあばに言わんばこのあるとき。

大学、遠くに進学するかもしれんと。

なかなか言えずにごめんね。一回だけ、ばあばに

「もしうちが遠くに住むことになったら、どがんする？」

って聞いたたら、ばあばは

「あんたがおらんば、死ぬかもしれんけん行かんね。」

この言葉ば聞いたたらなかなか言えんやつた。

でも大丈夫よ、ちゃんと電話もするし、手紙も書くし、

どがん手段ばとつても会いに行くけん。

だつてうちは、ばあばがうちを好きな以上にはあばのこと好きやけん。

ばあばが方言で何て言いよるか分からんくても、

例えボケても、うちば嫌いになつてもやけんね。

ばあばは、花が大好きだから、

季節の中で春が一番好きって言いよつたけど、

その春ば悲しい春にさせんことしてみせる。

だつて、その季節にはあばの笑顔がなからんば、春つて言えんけんね。

孫からの手紙は、きちんと、とつとかんばよ。